

市長とランチミーティング⑱ 北部で安心できる地域福祉の態勢を！

第18回「市長とランチミーティング」は12月15日(木)に「北部地区公民館」の皆さんと行われました。そのミーティング内容を紹介します。

中山市長 こんにちは。今日は北部地区の皆さんです。テーマにも出ていますが、医療面とかにおいては同じ石垣の中で特に市街地と北西部で実際に格差があるのは実情です。そのあたりのご意見もいただきながら、今後のまちづくりを活かしていきたいと考えております。ぜひ、忌憚のないご意見をよろしくお願いいたします。

北部の保健医療について

大松代表 現在、八重山病院から週1回水曜日に出向いていらつしやつて、北部の医療にすごく貢献されています。患者の皆さんは街まで行かなくても、大変助かっているという話をよく聞きます。北部で病院通いをしている人達は若者であろうが高齢者であろうが、すごく助かっているということなので、そのまま存続していただきたいと思



います。また、その診療におじいやおばあは定期バスで来ます。10時頃、診療が始まり、帰りのバスの時間は12時頃。診療は早く終わります。夏は暑さの中、民家の軒下で冬は寒い風にあたりながらバスを待ちます

が、大変だということでは社会福祉協議会(以下社協)に話をして、社協のほうで送る車を準備してもらい、明石から平野までの患者さんをバスの時間を待たさずに送ってもらっています。その燃料費用は社協で負担してもらっています。市街地であるうが田舎であるうが、市民は行政の恩恵を等しく受ける権利があることからして、燃料費用を予算化してもらい、スムーズに車に乗っていくことができるようお願いいたします。

男性 私も診療所に通っています。ひと月に1回、薬を取りに行くだけです。バスの時間は12時半ですから、だいぶ待ちます。

金城さん ただでさえ、具合が悪くて来ている方が、夏の日なたで待つのは大変です。私達は伊野田ですから、先生(医師)が病院へ戻る時に乗せてくださるんですけど、北部方面へ帰る人達は大変だろうと思います。

中山市長 診療所の待合所はどのうなっていますか。

宮良健康福祉センター所長 待合所としては5、6名が待てる小さなスペースです。

中山市長 実際、診療に来られる方はどれくらいですか。

宮良センター所長 県立病院によりますと、平均5名から15名です。

中山市長 じゃあ多い時は診療所の外にあふれますか。

宮良センター所長 でも、時間帯はちよつとずれるから、あふれることはないような感じです。

一人暮らし高齢者への配食サービス

大松代表 食事を作りきれないというか、一日一食でも食事を作って一人暮らしの高齢者に届けられないか、という話が出ましたので、いろいろ伺いました。食堂経営者など、あたってみましたが、定期的にできる時とできない時があると言われ、どうすればいいかということ、社協に相談しました。すると、弁当の配達をどうするかということと、とん挫してしまいました。北部地区の公民館、民生委員の皆さんで話し合いをしたところ、学校の給食室で調理する方やボランティアをしてくれる方がおれば、その調理場を使わせてもらえないか、という意見

市長とランチミーティング

がありました。
玉盛さん（社協職員） 現在、社協の配食サービスは市の介護長寿課から委託を受けて実施しています。平日の月曜から金曜までの夕食を配達しています。それと別に社協独自の配食サービスもあります。市の委託事業は予算があるため、1食250円で配達していますが、社協の配食は社協の財源から出している部分もあるので1食400円です。配達地域は東部は白保まで、西部は富野地区の方が利用しています。空白地域は野底、伊野田から伊原間、平久保、久宇良、平野のほうは配達地域に入ってますが、配達員、車の問題があり配達できない状況です。ただ、ニーズはありますので、施設ヘデイサービスに通っている方には、施設に弁当を届けて帰宅時に持ち帰ってもらう対応をしています。
中山市長 北西部ではどれくらいの需要がありそうですか。
玉盛さん 介護長寿課で申請、申込の調査をしたところ、13名ほどの希望があるとのこと。
森永福祉部長 一人暮らしの方、高齢者を含めると14名は該当します。健康福祉センターで弁当を作ると白保まで距離があり、弁当が冷めたりします。やはり近いところで調理して、お届けする方法がいいのかなと話しています。
奥松さん 学校で調理するとなると、先生方はどう思うのか。

公民館とか大きいところで作って配達する方法がいいのではと思います。
森永福祉部長 伊原間から以北とすると、場所は不明ですが、近いところで、人数がありますので、これは進めていく必要があるかなと思います。
大松代表 これはぜひ、やっていただきたい。人はいずれば歳をとっていき、一人になるわけで、ごはんを食べながら生活ができるわけですからね。問題はボランティアでしてくれる方がいるかどうか。
金城さん また、年寄りには配達にいくらお金がかかるのか、これを気にします。
大松代表 生活保護を受けているお年寄り夫婦をみています。その夫婦に田舎にいるより街に出て暮らしたかどうかと聞くと、おばーは買い物も楽しいので賛成だけど、おじーは畑で野菜作り、土いじりが好きなので、田舎がいいと言います。
森永福祉部長 やっぱ住まいが大事なんですね。身近な友達もいますしね。
漢那副市長 おっしゃるよう地域に住まうことですね。
大松代表 40年、50年も生活したところだから、よっぽどなないと街では暮らせないですよ。

介護施設を北部地区に

奥松さん お年寄りを介護施設

で遊ばしたりすることをやっていきますよね。北部からも行きたい人もいます。また、行きたいけど行けない人もいます。北部に介護施設を造つたらどうかという案は出しています。
豊島さん 私も民生委員の立場でお年寄りを訪問します。後期高齢者でも皆さん、お元気なんですね。野底地区でも25名の高齢者のうち、後期高齢者の方は6名いらして、街の施設に通っています。私達は子どもの頃から見ています。少しいきなり早く元気になつていた方がいいので、福祉関係の施設があればいいなと常に思っています。前に県の行政相談でこの件を要望しましたら、施設を建てるには時間がかかると言われました。そのために私達はどうすればいいか。努力と協力は惜しみませんので早く実現できればいいなという強い思いです。
森永福祉部長 希望と生きがいをもつて頑張れるお年寄りが増えることを願っています。
金城さん 我々、北部の人は街の施設に行ってもわからない人が多く、話ができません。結局、孤独のような状態で過ごすらしいです。地域に施設ができれば本当にいいと思います。
森永福祉部長 保健事業の在宅を含めたデイサービスや施設を

各地区で行政懇談会を

含めたものなど、今詰めている段階です。前向きに検討しながら、いろいろと話をしています。
金城さん 知っている人が調理したり、訪問したりすることはお年寄りの元気につながります。お食事も馴染みの食材や料理がでるといいですね。
森永福祉部長 身近なところ、今まで生活した範囲内で在宅の介護等をしていくことが望ましいというところで国、県も進めています。
大松代表 部落懇談会で北部にも消防署を設置してもらいたいと要請して、現在の伊原間出張所があります。後に救急車も設置してもらいました。部落懇談会をすることで、いろんな問題が出てきて、地域の人達に福祉サービスしてもらい、役立っています。これから先も若い人達はいろんな問題をかかえると思うので、意見交換という場の地域懇談会を2、3年に1回ほど開催してほしいと思います。
中山市長 今回、私自身が初めて聞く話もいくつかありました。これらを内部でもう一回話をして、実現できそうなものに関して動かししていきますし、また相談しながら様子をみて実行していきたいと思っています。弁当の調理、配食に関しては早めに対応したいなと思います。今日はありがとうございました。